

産学連携の事業表彰

姫路の「澤田棉行」検査装置開発で



賞状を受け取る澤田棉行の澤田安弘社長(左)
＝宍粟市山崎町山崎

西兵庫信用金庫(宍粟市)が設立した「にしん地域振興財団」は25日、大学との連携で製品検査装置を開発し、地場産業の発展に貢

献したとして、姫路市の織維卸・製造会社「澤田棉行」に表彰状を贈った。同社は不燃性の不織布を製造しており、製品への異

物混入を目視で検査していた。人手不足のため検査装置の導入を検討したが、大手メーカーの装置は数千万円必要で費用対効果が合わなかった。

そこで、画像処理を研究する県立大大学院の森本雅和准教授に相談。研究室のゼミ生も協力し、ごみを人工知能で識別して除去する装置を開発した。費用は10分の1で収まり、ごみの見落としてもないという。

こうした取り組みが、産学連携の研究開発で成果を上げた事例として表彰された。同社の澤田安弘社長は「教授たちも面白い研究に協力してくれる。中小企業

でも大学の技術を使って世界と勝負ができる」と話していた。
(古根川淳也)